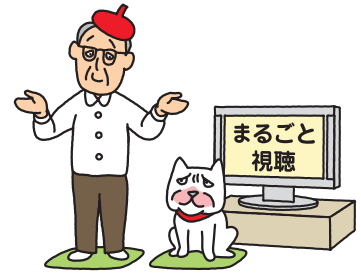





学習展開例 授業時間 45分

# 首都直下地震から命を守る わたしたちにできることは



時間配分	学習活動	教師の支援
5分	①地域の防災訓練に参加した経験を話し合う。	○避難訓練などの地域で行われる防災訓練に参加した経験をふり返ることで、身近に迫る切実な問題であることを意識してから番組を視聴できるようにする。
25分	②番組を視聴しながら考える。  震度6強 23区内の70% 視聴 ・23区内の70%が震度6強の揺れに襲われる首都東京   ・待ったなしで対策を考えなくてはいけないと警鐘を鳴らす大佛教授   ・行政に頼らずに、避難ビルを探し住民の避難場所を確保しようとする鶴田（ときた）町会長   ・救助を待つのではなく、自ら行動するという発想の転換が必要であると力説する協議会事務局の児島さん	○途中で一時停止せずに視聴する。番組に集中できるようにメモは取らないようにする。  ○首都直下地震によって想定される死者や帰宅困難者、住宅の倒壊、火災の発生、液状化、津波などの被害を、キーワードとして板書していく。  ○自治会独自に避難ビルを探すなどして連携しようとする動きや、企業に勤める人たちが救助活動の訓練をする様子などを紹介し、行政に頼らず自らの手で協力して地震に備えようとする取り組みとその必要性に着目できるようにする。  ○「自助」「共助」「公助」の3つの言葉を板書し、自分たちにできることは何か考えながら視聴するように声をかける。（必要に応じて言葉について補説する。）  ○動ける人が率先して動き、住民が住民を助け、市民が市民を助ける社会を作っていくことの重要性に気づくことができるようにする。
15分	③考えたことを交流し合う。	○番組視聴後、「自分たちの地域はどうなのだろうか」「自分たちにできることはどんなことだろうか」と発問し、自分たちの住む地域の被害想定や防災対策などに関心をもち、今後の取り組みを考えていけるようにする。生まれた課題については、総合的な学習の時間などで追究していけるようにする。  ○地域の防災訓練に参加した経験の少ない児童・生徒の中で、変化が見られた子を意図的に指名する。

## コラム 意図的・計画的な防災教育を推進するために

防災教育を推進するにあたり、今後、ティーチャーズ・ライブラリーなどの「映像資料」を積極的に活用する場面が多くなってくると考えられます。指導者は、授業の目的や児童生徒の実態に応じて扱う「映像資料」を吟味し、各校の防災教育担当は中心となって、自分たちの地域のハザードマップや防災計画などを見直す機会を職員研修や職員会議の中に設け、職員の意識を高め、組織として意図的・計画的な取り組みを推進していくことが効果的です。